

今回は、宍粟市社協の平成18年度の事業報告と決算報告を行います。平成18年度のあゆみをご確認ください。

「宍粟市」の 地域福祉のために 動き出した一年

平成18年度は、第1次地域福祉推進計画の策定、災害救援マニュアルの策定、第1回宍粟市地域福祉のつどいの開催など、広くなったエリアで、役職員がひとつの組織としてチームワークを発揮し、「宍粟市」の地域福祉推進のために動き出した一年でした。



法人運営

理事会、支部長会はほぼ毎月1回開催し、組織としての課題協議、方針決定に努めました。

また、法人としての「期待する職員像」を明確にし、人材育成を主眼に置いた「人事考課制度」について検討しました。

財政面では、自主財源が合併前に比べ減少傾向にあり、自立した社協経営のための財源確保が大きな課題です。募金などの使途を明確に「もっと見える社協」をめざします。

地域福祉活動

地域福祉活動では、「第1次地域福祉推進計画」と「災害救援マニュアル」の策定を軸に取り組みを進めてきました。また、合併後はじめての福祉大会と位置付けた「第1回宍粟市地域福祉のつどい」を2月11日に山崎文化会館で開催し、参加者参加型のフォーラムを行い、地域福祉への理

解と啓発を行いました。

地域ボランティア・NPO 活動支援

障がい者作業所、福祉NPOを組織した「福祉支援ネットワーク連絡会」による「ふれあいまつり」を開催し、関係者三百五十名が参加、障がい者問題を考える機会となりました。

介護保険事業

訪問介護事業（4支部）、訪問入浴介護事業（市全域）、通所介護事業（二宮）、居宅介護支援事業（4支部）を実施しました。「法改正」の影響で介護報酬の減額を予想していましたが、全体としては予算を上回る収入状況となりました。しかし、経営がきびしい事業所もあり改革を図る必要があります。

介護予防事業

介護予防普及啓発活動としての「お達者クラブ」を市内全域で立ち上げ、実施しました。